

武藤 禎夫 編

おと
あし
環作あしむ石

古
典
文
庫

武藤 禎夫 編



古
典
文
庫

古典文庫第五三一冊

平成三年二月二十五日印刷発行

非売品

石鵲作珍

編者 武藤 禎 夫

発行者 吉 田 幸 一

印刷者 共立印刷株式会社

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話(三九一〇)二七一七
振替口座東京九一四五九七番

珍兆鸚鵡石序

秋の夜のなりゆくきんぐり生

秋連平能信立花既鞠

茶の湯舞謡教を教留琴二味線小

小秋津場屋茶將茶雙六ツて初

これハはねりなりさふおもふ朋友と申し合

能耳の底は張るこつと方くの留書集

古咄も能波のきハ伊勢の演萩可

周く名も常人あは周く城くんれ

孫作鶴翁石上之光

倭仙人

有りふり一ツあり人ハまゝ二ツ三ツにツみツち
 一ツれ浮世ハも先き作のぞくものほききき
 人々まゝ一ツ波の町人ハ人々づいの家持
 一人是まに久しきとて肉身生もこのま
 まやまゝ一ツ所あるぬん一ツ浮世のま
 かりひてイヤヤ人者一ツものハけせの苑
 とひきさう、朝旦の露の今老りあそ

珍作鸚鵡石

柳口山——大集

序

君が代を国出交春月をわ——あゝと
雲河露島と流るも壽に永く流る
せぬや哉りての我もをわいさ——と
あ——まのにあいありぬ所青陽の
貴日れ神伽神もは秋の夜長に時を
あ——と——生れはれへ秋蓮の清

安永六年写本（序一才）

立花夢鞠又と茶け湯惱床報を敵
琵琶琴二味線小弓小歌海軍種茶將泰
雙六一ツとして知るれば仕掛がらゝにふ
葉と吐く食蔭平た座は張りくよば
反おれ端り出つ月めく古新も雅成の
芦冬候勢の演萩所ふりと名もかき
人家にう川く珠じかんねあれたん
と新しきとば攪く珍作れ鰐鰯石

安永六年写本（序二才）

なりぐさみれ^{とら}わし^{とら}—^{とら}あ^{とら}は^{とら}ッ^{とら}る^{とら}を^{とら}赤^{とら}ひ
も^{とら}も^{とら}こ^{とら}し^{とら}る^{とら}川^{とら}の^{とら}も^{とら}か^{とら}—^{とら}は^{とら}は^{とら}り^{とら}ん^{とら}ね
笑^{とら}ひ^{とら}あ^{とら}れ^{とら}む^{とら}冬^{とら}信^{とら}君^{とら}あ^{とら}れ^{とら}年^{とら}り
さ^{とら}く^{とら}り^{とら}の^{とら}なり^{とら}ん^{とら}ね

安永六ッねし

う^{とら}う^{とら}れ^{とら}の^{とら}年^{とら}乃^{とら}永^{とら}元^{とら}日

延命堂

福壽軒



珍作鸚鵡石之書一

元日ノ壽礼

珍作鸚鵡石之書一

正月に門主の如く歳次へく諸一毎々此
家ノ史ノ祖父へ上下祖母へうちけ書く
人ノ在方^{まへ}擲^{なげ}むひひや^や私^{わが}今年八十八歳又
是^{こゝ}ある漢^{かん}もハナハサ集^{あつ}撰^{せん}漢^{かん}も易^{えき}力^{りき}も易^{えき}
又^{また}まんがん^{まん}ニ親^{おや}くも孝^{こう}心^{しん}を^をし^しまた又^{また}
一^{ひと}人^{ひと}も活^い山^{さん}より金^{かね}指^{さし}を^を贈^{くわ}に^に海^{かい}田^{でん}地^ちを
は度^どく^くく^く地^ちに^に実^みの^の高^{たか}堂^{どう}を^を建^た置^けい^い

安永六年写本（本文一才）

目次

凡例……………三

一 珍作鸚鵡石（明和六年・梅鶯序）……………五

二 珍作鸚鵡石（安永六年・福寿軒序）……………九

解説……………三〇九

凡 例

一、上方の落槌写本として、明和六年梅鶯序『珍作鸚鵡石』 乾坤二卷（京都大学附属図書館蔵本）と、同じ書名ながら全く内容が異なる安永六年福寿軒序『珍作鸚鵡石』（家蔵本）の二書を併せて翻刻した。

一、翻刻にあたっては、印刷や判読の便を考えて、大体次のようにした。

- 1 漢字・仮名は、現行の字体を用いた。（例、羈↓鶴、遯↓逃、𠂇↓より）
- 2 仮名遣い・振り仮名・踊り字・衍字・清濁（位置の誤りは直す）などは、原則として底本通りとした。

3 句点はごく稀れにあるが、両書とも私意によって句読点を施した。

4 誤字や脱字などの不備や、書入れの傍記もあるが、不詳部分とあわせて、（○○カ）（○○脱）（ママ）などと傍記した。

5 丁付が一切ないので、序・目録・各巻の本文ごとに、（1オ）（1ウ）のごとく洋数字の通し丁を付して、丁移りを示した。

6 検索の便宜上、目録・本文の題名の上に、和数字で通し番号を付した。

このほか、家蔵本においては、

イ 目録の題名下の「」内に、先行の類話題名を、参考として掲げた。

ロ 片仮名や小文字はあまりに多いので、大方は平仮名・並み字に直した。ただし、ごく一部の「ハ」と、「ハイ」「イヤ」などの片仮名と、「角力取り」「一ト人」などや、二行割り、会話の主人公名に使用の小文字は、そのままとした。

一、解説は、簡単な書誌的事項にとどめ、巻末に付載した。

一

珍作鸚鵡石

(明和六年・梅鶯序)

